

研究所だより

教育三笠

第230号

発行／三笠市教育研究所

- 新年度のあいさつ
- 三笠市立教育研究所運営計画

【岡山小学校】



入学式



青空教室

爽やかな新緑の中、三笠の地にも、こぶし・桜・梅と花だよりの季節となりました。新たな子どもたちとの出会いの中で、毎日の工夫された教育活動に奮闘されていることと存じます。教育研究所も新体制で今年度の研究活動を始動させました。急激な社会の変化と、それに伴う子どもたちの変化、そしてICTの活用に象徴される教育環境の変化など、これからの教師に求められる資質・能力について多角的な力量が求められています。

約10年ごとに改訂されてきた学習指導要領をふり返してみると、平成元年には「生活科」が新設され、社会の変化に対応できる心豊かな人間の育成が謳われました。その後平成10年には「総合的な学習の時間」が新設されました。そして、前改訂の平成21年には、授業時間増と小学校外国語活動が導入され、思考力・判断力・表現力等のバランスの良い育成が求められており、今次改訂の「主体的・対話的で深い学び」の追究へと繋がってきました。

人生100年時代を迎え、地域や社会のために活動することが一般的になり、超スマート社会(Society 5.0)では、人々の働き方やライフスタイルの変化が起こると予想されています。教科書も「デジタル教科書」が導入さ

研究所には、教育関係の出版物や各種研究資料及び教育雑誌が整理・保管されています。戦後の貴重な資料から今日的な内容の資料まで相当量の資料があります。お気軽にお



爽やかな新緑の中、三笠の地にも、こぶし・桜・梅と花だよりの季節となりました。新たな子どもたちとの出会いの中で、毎日の工夫された教育活動に奮闘されていることと存じます。教育研究所も新体制で今年度の研究活動を始動させました。急激な社会の変化と、それに伴う子どもたちの変化、そしてICTの活用に象徴される教育環境の変化など、これからの教師に求められる資質・能力について多角的な力量が求められています。

三笠市の子どもの豊かな学びへ向けて

三笠市教育研究所長 松井 牧子

れ、タブレットの活用も研究が進んでいます。

以前から、メールの連絡、教材の作成(OHP)、子どもの活動を録画して振り返りに活用すること等、様々な教育活動で活用してきました。スクリーンに映し出すのはPCに変化しましたが各教室には拡大機が必ずあります。

「不易と流行」という視点では、現在は「流行」色は強いように感じますが、授業づくりにおいては、一時間が見える板書の工夫、子ども一人一人の特徴を理解して対話を大切にする教師のかかわりは「不易の資質・能力であると考えます。

今年度より「読解力向上」と「情報活用能力」の育成が両輪となる三笠市の教育の方向が示されました。授業での「振り返り」を大切にしたい。「三笠スタイル」も提案から三年目となり、各校の研修で検証されている内容を交流しながら、基礎・基本の確実な定着をめざしつつ、各教科の学びが実生活や将来にどう関連しているのか捉えながら三笠市全体の授業改善へとつながる成果が見えつつあると考えています。

本市が推進している小中一貫教育を「授業づくり」の観点を柱としながら、各校と連携した教育研究活動を展開することで、三笠市の子どもの豊かな学びへとつながることを期待しながら、教育研究所としての教育活動を推進していきたいと考えています。

今年も開催! ためになる「夏季講座」

今年度も、教育活動のさらなる充実にむけ、「夏季講座」を開催いたします。日常実践に活用できる内容を準備しております。多くのご参加をお待ちしております。

【期日】令和4年8月2日(火) 9:00~15:00
【会場】三笠市民会館(冷房完備で快適に受講していただけます!)
【講座・講師】(幅広い講座を設定いたしました!)



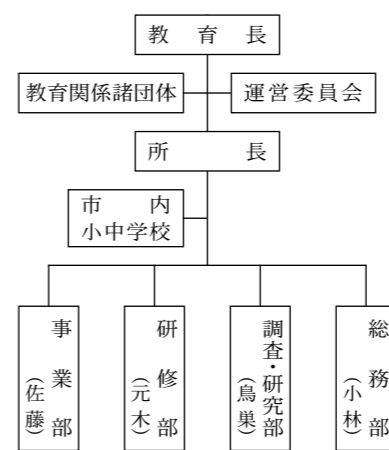
- 講座1 国語教育講座**
「読解力向上への授業実践」ICTの活用
講師:北海道教育大学付属札幌小学校 主幹 教諭 中島 大輔 氏
- 講座2 地域学習講座**
「地域素材を知る」
講師:北海道開発局 幾春別川ダム建設事業所 副長 稲垣 達弘 氏
- 講座3 特別講座**
「特別な支援でみんなが幸せになる社会を」
講師:東北福祉大学 教育学部 准教授 和 史郎 氏

【その他】昼食には、「三笠市ジオパーク弁当」を斡旋いたします。
(三笠市ジオパークの特徴が詰まった盛りだくさんのお弁当で、毎年好評をいただいております!)

※尚、8月9日(火)には、地域素材めぐり「まるごと三笠」を予定しています。詳細は、今後各校にお知らせしますので、こちらも是非ご参加ください。

- ①各校の実践課題及び研究計画を把握し、研究実践に協力する。
 - A.各校研究計画の紹介と交流の促進
 - B.校内研究への積極的参加
 - C.研究資料、情報の提供
 - D.研究成果の交流
- ②研究指定校等、各校との連絡・提携に際すること
 - A.研究担当者との連携を密にし、相互理解を図る。
 - B.校内研究・学習会への積極的参加
 - C.関係機関・団体との連絡調整
 - D.関係課題の研究と共に、資料・情報の提供
- ③振興会研究指定校
 - A.青少年育成センターとの関連で、教育相談についての研究・協力・資料などの提供に努める。
 - B.その他
 - I.教科及び教科外指導の協力・相談について
 - II.小学校関係担当(鳥巢、佐藤)
 - III.中学校関係担当(小林、元木)
 - C.研究指定校の担当について
 - D.三笠中学校(所長、全所員)
 - E.振興会事務局担当(小林)
 - F.いじめ問題対策連絡協議会(佐藤)
 - G.ICT教育推進委員会(元木)
 - H.勤務
 - I.毎週水曜日・金曜日を定例の出勤日とし、15時から17時まで勤務する。
 - I.機構図
 - I.三笠市教育研究所条例施行規則 第3条の規定により下図のように定める。

研究所機構図



研究所から 研究図書・資料・雑誌の利用について

研究所には、教育関係の出版物や各種研究資料及び教育雑誌が整理・保管されています。戦後の貴重な資料から今日的な内容の資料まで相当量の資料があります。お気軽にお

編集後記

今年度最初の所報「教育三笠」を発行することができました。教育委員会、各教育関係機関、ならびに教職員の皆様へ原稿の執筆等のご協力をいただきました。感謝申し上げます。三笠の教育の動向をご理解いただける一助になれば幸いです。

研究所は、水曜日と金曜日の午後3時から5時まで所員が勤めております。日々の実践に活用していただける資料も多数ありますので、お気軽にお越しください。今年度も研究所へのご協力をお願いいたします。

電話等でお申し込みください。また、直接、研究所にも足をお運びになってください。お待ちしております。

尚、研究所では今年度、次の書籍を定期購読しておりますので、ぜひご活用ください。

- ▽初等教育資料(東洋館)
- ▽教職研修(教育開発研究所)
- ▽実践国語研究(明治図書)

※他にも希望する研修図書や雑誌答がありましたら、研究所にお伝えください。

三笠市教育研究所所報

発行日 令和4年6月3日
発行所 三笠市教育研究所
代表 松井 牧子
三笠市若草町404
電話 212197番
印刷所 中央印刷株式会社

ご挨拶

三笠市教育委員会教育長 高森 裕司



教育研究所をはじめ、教育関係者の皆様には、日頃より本市の教育行政の推進にあたり、ご理解とご協力を賜り、心より厚くお礼申し上げます。

教育研究所においては、松井所長をはじめ、研究所員や専門員を中心とした研究体制により、昨年度は社会科学習帳「わたしたちの三笠」の再編集など子どもたちの郷土愛を育むための教材作成にご尽力いただきました。また、本年度につきましても引き続き小中一貫教育の系統的な教育課程の充実に向けた研究や読解力向上に向けた授業実践交流など、本市の研究課題に、ご尽力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

本年4月に改定した三笠市教育大綱については、第9次三笠市総合計画の「人が育つまち三笠」等の基本目標を本市の教育の目指す姿として、家庭・学校・地域社会が一体となって、「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を基礎とする子どもたちの自らの夢に挑戦し、社会で生き抜く力を育むとともに、三笠で生きること誇りをもち、三笠の未来を考え、郷土愛を育む学校教育を進めてまいります。

三笠高校については、平成24年度に道内唯一の公立の食物調理科として開校以来、食のプロフェッショナルを目指す生徒の真剣な姿勢は市民からも高く評価されており、平成30年にオープンした研修施設「三笠高校生レストラン」でさらに研鑽を深め、自らの夢に向かって道を切り拓く人材を育てています。また、調理・製菓の各種コンクールにチャレンジし、全国優勝を果た

コロナ禍の不安定な状況にありながらも、子どもたちの未来を育む教育活動を止めないよう、三笠市教育委員会、三笠市教育研究所のご指導と、教育関係各位のご支援を賜りながら、三笠市の教育の充実に取り組みんで参ります。よろしくお願ひ申し上げます。

戦争のころの学校

三笠中学校 小川 一芳



昨年度に引き続き、教育研究所の運営委員を委嘱されました。ご挨拶を兼ねまして、日々の教育活動において感じていることを述べさせていただきます。

私は担当する社会科の授業で、最初の時間に1年間の授業についてのオリエンテーションをします。今年度も新1年生を前にして、「社会科は暗記の教科ではなく、考える教科だよ」「社会科の答えは1つじゃないよ」と私。「例えば、ウクライナで戦争が始まったね。どうして？」。誇らしげに手をあげるまだ名前も知らない生徒を指名すると、「それは、ウクライナ東部に多くのロシア系の住民が住んでいるから」と女子生徒、意外に詳しいその答えにちょっとびっくりしつつも、「すごいねえ、よく知っているね。でも、それだけが答えなの？ウクライナの人たちはどう思っているのかな？答えは1つじゃないね」と私。

一方で、歴史学ではこれまでの研究者による長年の研究と学問の成果としての答えが導かれています。例えば同じ戦争であっても太平洋戦争は、70年以上の年月を経て多くの学者や研究者の共通した認識のもと、戦争に対

すなど輝かしい成績を収め続けており、市民にたくさんのおいしい話題と感動を与えています。新型コロナウイルス感染症が発生してからの学校生活、各種行事、部活動が以前のようにできない状況が続いておりますが、そのような中でも、子どもたちの健康と安全を第一に考え、最善の方策を取りながら、児童生徒の学習機会と学力を保障するために学びを絶対に止めない教育を各学校と連携し進めてまいりますので、本市の教育行政へのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ご挨拶

北海道三笠高等学校長 藤田 博史



今年度、後志管内の蘭越高校から着任しました。どうぞよろしくお願ひいたします。

令和3年度は新型コロナウイルス感染症の第四波、第五波により、教育活動にも制約と影響がありました。令和4年に入り、新種のウィルスの影響により国内でも感染が拡大し、まだまだ先行きが見通せない状況ですが、学校では感染症対策をしっかり講じながら、授業や行事、課外活動などが本来の姿に戻りつつあります。

そのような中、中央教育審議会が出した、令和3年1月26日の答申「令和の日本型学校教育」の構築を目指して「では『前略』『予測困難な時代』であり、新型コロナウイルス感染症により一層先行き不透明となる中、私たち一人ひとりと、そして社会全体が、答えのない問いにどう立ち向かうのか問われている。目の前の事象から解決すべき課題を見だし、主体的に考

する歴史的評価が定着し教科書に記述されています。ゆえにそれらを否定することは、歴史修正主義と呼ばれますが、そのような考えの人々が、自分たちの立場でもって教科書に記述させようという動きがみられることを危惧しています。

話は変わりますが、昨年、研究所が発行した小学校社会科副読本にも太平洋戦争当時の三笠市の様子が記述されています。児童への問いかけとして「戦争のころの学校や子どもた

令和4年度 教育研究所運営計画

I. 運営方針

今日の教育の方向性や教育の実態等を的確に把握し、教育研究の科学性、時代性、即時性、先進性に立脚した教育に関する理論と実践の研究を行う。併せて、市内各校における教育活動が、意欲的かつ効果的に進められるよう研究・協力・指導・助言の機能を十分発揮し、市教育の振興に寄与する。

- II. 運営の重点
 1. 新教育課程の編成・実施についての調査・研究に努める。
 2. 教育現場の課題を把握し、実践に役立つ調査・研究に努める。
 3. 教育に関する情報を広く収集し、提供と活用を努める。
 4. 各校と提携・交流を深め、実践課題の究明に努める。
 5. 研修事業の効果的な推進に努める。
 6. 広報活動の充実と活発化に努める。
 7. 振興会等、市内における各種研究機関・団体との連携を深め、所務の円滑な推進に努

え、多様な立場のものが協働的に議論し、納得解を生み出すことなど、正に新学習指導要領で育成を目指す資質・能力が一層強く求められていると言えよう。」と述べられています。

ご存じのように本校では、授業や部活動を通して食に関する専門的な知識や技能、接客などを学び、将来的に社会で活躍できる人材の育成を図っています。それらに加え、ホームルーム、学校行事等の学びの場を通して、人間関係形成、社会形成能力を始めとする基礎的汎用的能力の育成に努めています。先行き不透明な社会状況であるからこそ、生徒たちにはこの学びの基礎の上に、更なる能力を獲得し伸ばしてゆくために、将来のビジョンを自分

分に問ひかけ、将来の自分の姿を真剣に考え、想像してもらいたいと思います。そして、そのために今何をしなければならぬのかを考え、受け身ではなく主体的に多くのことを学び続けてほしいとも願っています。

私たち教職員も、これからの社会の変化等に対応すべく新たな視点で取り組み、教師自らが受け身ではなく主体的にこの変化に対応し、教育活動を進めてまいります。今後も、ますます保護者の皆様や地域の方々との連携しながら取り組んでいくことが大切だとも考えています。

今後とも、本校へのご理解とご支援をいただきますようどうぞよろしくお願ひいたします。



第1回 教育研究所運営委員会

ちの生活どんな様子だったのでしょうか。」とあり、当時の様子が記載されています。いざ、戦争が始まってしまえば75年前も、現在も、子どもたちを取り巻く悲惨な状況に何ら違いはありません。

今起きているウクライナでの戦争が、数十年後どのような歴史的評価を受けているかわかりませんが、過去の戦争であれ、現在の戦争であれ、平和の大切さを教材化していくことの重要性をあらためて痛感します。

める。

- 8. 道研連・各教育研究所・道内教育研究機関・団体との提携・交流を深め、研究事業の充実を努める。
- 9. 運営委員会を開催し、所務の適正な運営に努める。

III. 運営計画

- 1. 総務部(小林)
 - (1) 所務の総括と企画・運営に関すること
 - (2) 各部業務の連絡・調整
 - (3) 所員会議の企画・運営
- (2) 関係機関、団体との連絡・調整に関すること
 - ① 振興会との連携
 - ア. 総会・部会結成・研究大会の準備
 - イ. 実技講座の実施
 - ウ. その他必要に応じた業務の推進
 - ② 管内教育研究所との連携
 - ア. 管内教育研究所連絡協議会の開催に関すること

三笠市の教育の推進

三笠市教育研究振興会会長 米倉 卓司



全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びを実現し、予測不可能な未来社会に自立的に生き社会形成に参

画する資質・能力の育成が教育に求められています。「第9次三笠市総合計画」における「人が育つまち三笠」「人と自然が共存できるまち三笠」を教育行政の基本目標とし、令和4年4月「三笠市教育大綱」が策定されました。学習基盤となる言語能力・情報活用能力の育成を育成するため読解力を支える語彙力を強化する取り組みを進めることが示されています。

三笠市の教育方針を基に教育研究活動を進める三笠市教育研究振興会は、昨年度児童生徒一人一人が生きて学び合う授業づくり「資質能力の3つの柱を伸ばす小中一貫教育の推進」を研究主題に、11月25日に三笠中学校を会場として研究大会を開催しました。令和4年度もこの研究主題を継続し、11月24日に三笠小学校を会場として研究大会を予定しております。教員一人一人の日常の授業実践研究の積み重ねとともに、児童生徒が主体的、対話的で深い学びを進めていけるように、小中学校9年間を通して学びの連続性、系統性を高めた教育を追求して参ります。

三笠市教育研究振興会が教科指導を中心とした部会研修を充実させ、三笠市として目指すべき授業スタイルの検証を進め、小中一貫教育を一層充実させていくことで教育の質的向上に繋がり、三笠市の子どもたちの生きる力に繋がるものと考えます。

- ① 運営委員会の業務と資料の整理・保管
- ② 運営委員会と連絡調整
- ③ 会議の運営に関すること
- (4) 公簿の整理・保管と庶務的事項の処理に関すること
- (5) その他、各部に属さないこと

2. 調査・研究部(鳥巢)

- (1) 各種、教育の調査・研究に関すること
- ① 教育現場、その他の団体からの意見の集約
- ② 教育関係諸調査の実施と集約
 - ア. 教育課程に関すること
 - イ. 学習指導に関すること
 - ウ. 教科書その他の教材に関すること
 - エ. 教育活動に関すること
- (2) 研究課題の設定と推進・集約に関すること
 - ① 研究課題
 - 『確かな学力を育てる 小中一貫教育の研究』
 - 『小中一貫教育系統的な教育課程の充実に向けた研究、小中一貫教育各教科系統表の編集・発刊』
 - 『言語能力、情報活用能力の育成に向けた授業実践』
 - 『防災教育実践交流』
 - 『三笠市内閉校小中学校の資料整理(地域学習の充実へ向けて)』
 - ② 研究の方法
 - ア. 所内で上記の課題について、研修を深める。
 - イ. 専門員会議を開催する。

- (3) 研究成果の普及・奨励に関すること。
 - ① 研究成果の発表と実践検証の促進
 - ② 各研究機関・団体・学校等の研究成果の紹介
- 3. 研修部(元木)
 - (1) 教育実践の専門的事項の指導・助言に関すること